

3. ポストン福島シャトル便



おいしそうな栗の話題の後に、全く季節感のないテーマですが、今回は「学び方」について最近感じたことを書きます。子どもが小学校で習ってくることと、私が大学で習っていることを日々見比べると、こちらの教育の特徴が見えてきました。

今週の子どもの一番のイベントは、Star student でした。日本でいえばお当番の日でしょうか。毎日、一人の子がお当番になって、先生と一緒に朝の会や授業をリードします。それだけではなく、自分のことを紹介するポスターを作って、みんなの前で発表して質問を受けます。

今月中旬の私のイベントは、Takemi seminar です。講座の研究検討会と同じ形式で、パワーポイントのスライドを準備して、当日は発表、質疑応答です。日々の講義でも、小教室でのセミナータイプの場合は、指定された本や論文を事前に読み、講義の中で皆が読んで考えたことを発言して、それに対して教員がコメントする流れで進みます。

① 課題に取り組む

子どものポスターづくりは、頑張って英語で書いたこともあり、数日かかりました。どの子どもとっても素敵な作品を持ってきます。私の参加している講義でも、異なる専門性を持った学生が、同じ論文を読んでも、それぞれ個性ある発言をします。課題に取りくんで、自分で考える、その過程が重視される教育だと感じています。

② 自分の意見

今朝、子どもの先生が大きな笑顔で「昨日の Star student の日は、初めて自分から手を挙げて発言する姿勢を見せましたよ！」と、花丸コメントを下さいました。私の受けている講義でも、研究検討会でも、発言や質問をしなければ、その人の学びは少ない仕組みになっています。質問をすると教員が惜しむことなく豊富な知識、見解を教えてください。意見を交換することの習慣が、教育の基盤になっていると実感しています。自分の意見を言うためには、上記①の過程が必要です。

さて、皆さんに質問です。このディスプレイは何を伝えているのでしょうか？上からボールがどんどん出てきて、パチンコのボードのような網を潜りぬけて、下に積まれていきます。子どもの科学博物館の展示で、私の方が大喜びでした。

次回のテーマは、季節感のあるハロウィーンにしようかなと思います。

